

2023年度点検・評価シート

・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針

【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針

・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。

・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。

・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

I【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

対象部局	32 英文学専攻	責任者	里見繁美
基準4	教育課程・学習成果	自己評価	B
★基準4の自己評価の理由を簡潔に解説してください。			
<<回答>> キャリア教育を実施していない点を除いて、その他はおおむね達成しており、評価できる結果となっている。			
点検・評価項目(1)	4-1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。		
★<学位授与方針> 文学研究科英文学専攻修士課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身に付け、修士論文が審査のうえ合格と認められた学生に修士（英文学）の学位を授与する。 1 （1）英文学、米文学、英語学、英米文化の各分野における深い知識を修得し、文学、言語、歴史、文化を総合的に理解している。 2 （1）英語の読解力、作文力、運用力を学修し、人間文化、地域文化、言語文化の領域における研究内容を適切に理解し、高度な思考により判断して、的確に自己を表現する能力を有する。 3 （1）文学作品の鑑賞力と批評力を養い、言語文化に関する鋭い分析力と異文化に対する広汎な受容力をもつ高度な職業人として積極的に社会に貢献することができる。 （2）国際社会に対して広い見識を持ち、創造的に貢献することができる。	変	有()	
		更	無(○)
評価の視点1 【基礎要件●】	上記の方針は、修得すべき知識、技能、態度等の学修成果が明示され授与する学位にふさわしい内容となっている。		
評価の視点2※ 【基礎要件●】	上記の方針の公表は、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート7		
点検・評価項目(2)	4-2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。		
◆学位授与方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。			
<<回答>> なし			
★<教育課程の編成・実施方針>（記入してください。） 文学研究科英文学専攻修士課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。 1 教育内容 （1）演習系列、「英文学」「米文学」「英語学」「英米文化」の4つの分野からひとつを選択し、「演習科目」を中心に専門分野を学ぶ。 （2）講義系列、「英文学」「米文学」「英語学」「英米文化」から専門分野に関する「特殊講義科目」を選択し、演習科目との関連で広く学ぶ。 （3）「ヨーロッパ文学特殊講義」では、「演習科目」と「特殊講義科目」の学修内容を広め、特に、フランス、ドイツ等の文学思潮・精神文化等を学修する。 （4）「研究方法論」では、研究の進め方・英文論文作成法を学ぶ。 （5）専門分野に関連する内容の実践演習「インターンシップ実習」をする。 （6）演習系列の専門分野の修士論文をまとめる。	変	有()	
		更	無(○)

<p>2 教育方法</p> <p>(1) 「演習科目」系列は、少人数による専門分野の研究を双方向による集中的な形式で実施する。</p> <p>(2) 「特殊講義科目」系列は、専門分野の研究内容を広範囲にわたり学修する。</p> <p>(3) 修士課程在学中は、専門分野によってイギリス、アメリカ等への海外留学を推奨している。</p> <p>(4) 指導教員と共に、専門分野の学会の研究会や発表会に参加する。</p> <p>(5) 年間計画には研究分野の成果を発表する学内研究会の機会を設けている。</p> <p>(6) 学内の英文研究雑誌 Paulownia を作成して公開する。</p> <p>3. 評価方法</p> <p>(1) 学位授与方針に掲げられた能力の評価として、単位取得状況、研究指導受講状況、学位論文の結果によって測定するものとする。</p> <p>(2) 学位授与方針に掲げられた、形式的評価として、毎学年、専攻科主任と指導教員との面談により、指導状況等を確認する。</p> <p>(3) 2年間の総括的な学習成果として、指導教員（主査）、副査教員（2名）が、修士論文口述試験の際に論文の内容を評価する。</p>																													
評価の視点1 【基礎要件●】	上記の方針は、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育についての基本的な考え方を明示している。																												
評価の視点2 【基礎要件●】	上記の方針は、学位授与方針に整合している。																												
評価の視点3※ 【基礎要件●】	上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート7																												
<p>★※DPとCPの連関について（DPとCPの各項目の番号を矢印で紐づけてください。）</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>DP1(1)</td> <td>→</td> <td>CP1(1)</td> <td>CP1(2)</td> <td>CP1(6)</td> <td>CP2(1)</td> <td>CP2(2)</td> </tr> <tr> <td>DP2(1)</td> <td>→</td> <td>CP1(4)</td> <td>CP2(3)</td> <td>CP2(5)</td> <td>CP2(6)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>DP3(1)</td> <td>→</td> <td>CP1(1)</td> <td>CP1(4)</td> <td>CP1(5)</td> <td>CP1(6)</td> <td>CP2(1) CP2(4) CP2(6)</td> </tr> <tr> <td>DP3(2)</td> <td>→</td> <td>CP1(3)</td> <td>CP2(3)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		DP1(1)	→	CP1(1)	CP1(2)	CP1(6)	CP2(1)	CP2(2)	DP2(1)	→	CP1(4)	CP2(3)	CP2(5)	CP2(6)		DP3(1)	→	CP1(1)	CP1(4)	CP1(5)	CP1(6)	CP2(1) CP2(4) CP2(6)	DP3(2)	→	CP1(3)	CP2(3)			
DP1(1)	→	CP1(1)	CP1(2)	CP1(6)	CP2(1)	CP2(2)																							
DP2(1)	→	CP1(4)	CP2(3)	CP2(5)	CP2(6)																								
DP3(1)	→	CP1(1)	CP1(4)	CP1(5)	CP1(6)	CP2(1) CP2(4) CP2(6)																							
DP3(2)	→	CP1(3)	CP2(3)																										
<p>★項目(2) 4-2DP1からDP3について、それぞれの内容がどのようにCPの内容に反映されているのか（あるいは教育課程のどこで具現化されるのか）、その連関について説明してください。</p> <p>以下の事例を参考に記述してください。※事例は過去のものであります。なおここではDP1のみ抜粋ですが続きがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DP「1. 知識・技能」（1）に明示した、「日本の文学と言語・文化に関する基本的な知識」「専門的な知見」と、DP「1. 知識・技能」（2）の「文献や資料を的確に読解する」については、CP「1. 教育内容」（1）で、『日本文学史概説』『日本語学概説』などで体系的・通史的な知識や素養を身につけ』とされ、CP「1. 教育内容」（2）で『「日本文学講読」「日本語学講読」や各分野の「特殊講義」などで、特定の主題に関する専門的な知識を身につける。』と明示されている。 																													
<p>〈回答〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DP1（1）は、CP1（1）・（2）、及びCP2（1）・（2）の「演習科目」と「特殊講義科目」の有機的な関連付けによる学修で、より総合的な理解の深化に繋げることができ、それを具現化する科目は、例えば「英文学」の専門分野では、「英文学演習」と「英文学特殊講義」である。 ・DP2（1）は、CP1（4）、及びCP2（3）・（5）・（6）の組み合わせにより、英語の読解力、作文力、運用力を学修し、高度な思考により、的確に自己を表現する能力を身につけることができ、それを具現化する科目は、例えば「研究方法論」と Paulownia 論文作成である。 ・DP3（1）は、CP1(1)・(4)の学修、CP1（5）の体験及びCP1（6）の執筆、またCP2（1）・（4）・（6）により、文学作品の鑑賞力と批評力を養い、高度な職業人として積極的に社会に貢献することができ、それを具現化するものは、例えば「米文学」の専門分野では、「米文学演習」であり、また Paulownia 論文執筆、そして演習系列の専門分野の修士論文を纏めることである。 ・DP3（2）は、CP1(3)及びCP2（3）により、国際社会に対して広い見識を獲得し、貢献することができるようになる。 																													
<p>★教育課程・編成・実施方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。</p>																													
<p>〈回答〉</p>																													

特になし	
点検・評価項目(3)	4-3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点1※	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性を図っている。根拠資料→A1-2*大学院学則、A4-43Web サイト シラバス
評価の視点2※	学習の順次性に配慮した各授業科目の年次・学期配当をしている。根拠資料→B4-68Web サイト カリキュラムツリー
評価の視点3※	専門分野の学問体系を考慮した教育課程を編成している。根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ
評価の視点4※	学習成果を修得させるために適切な授業期間を設定している。 根拠資料→A1-2*大学院学則
評価の視点5※	単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしている。根拠資料→A1-2*大学院学則、基礎要件確認シート9、10
評価の視点6※	教育課程を編成する措置として、個々の授業科目の内容及び方法は適切に設定されている。 根拠資料→A4-13Web サイト 科目ナンバリング、A4-43Web サイト シラバス
評価の視点7※	編成方針に基づき、授業科目を必修、選択等位置づけており履修の手引きに掲載している。 根拠資料→B4-19 研究科 科目編成表（全研究科専攻、コースワーク、リサーチワークの表示が必要）
評価の視点8※	コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育課程を設置している。根拠資料→B4-19 研究科科目編成表（全研究科専攻、コースワーク、リサーチワークの表示が必要）
評価の視点9※	専攻の教育研究上の目的や課程修了時の学修成果と、各授業科目との関係を明確にしている。 根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ
評価の視点10	学生の社会的、職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を実施している。
★項目(3) 4-3①社会的、職業的自立を図るために必要な能力の育成として実施しているキャリア教育について、根拠資料（該当するシラバス、教育プログラムの場合はその制度が分かる資料など）を用いて回答してください。	
<回答> 専攻独自のキャリア教育は実施できていない。	<根拠資料> 32-C4-1：なし
★項目(3) 4-3②当該部局のカリキュラムの編成、授業科目の配置の特性について解説してください。	
<回答> 演習科目と特殊講義科目とに分け、演習科目は研究指導教員による科目として位置づけ、その他は演習科目と関連付けながら、専門的な知識と豊かな教養を身に付ける科目として編成している。	
◆授業科目の開設や、教育課程の体系的な編成について問題点があれば記述してください。	
<回答> 特になし	
点検・評価項目(4)	4-4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。
評価の視点1※	シラバスの内容（到達目標・学修成果の指標・授業内容及び方法・授業計画・授業準備のための指示・成績評価方法及び基準等の明示）に基づいた授業を実施し、整合性が図れている。根拠資料→A4-43Web サイト シラバス
評価の視点2※	シラバスの記載内容の第三者チェックの実施結果を教授会で報告、検証している。 根拠資料→B4-40 シラバスチェック実施報告、B4-42 シラバスチェック体制
評価の視点3	学習の進捗と学生の理解度の確認
★項目(4) 4-4①授業を行ううえで、学習の進捗と受講する学生の理解度の確認をするために、当該部局としてどのような措置を講じているか、回答してください。	
<回答> 新入生に対しては入学後の対面式時に、上級生に対してはガイダンス時に、学位取得プロセス、や論文指導スケジュールを配布し、修士論文の進捗状況の確認の機会としている。	<根拠資料> 32-C4-2： ①英文学専攻修士課程教育研究上の目的および基本方針 ②英文学専攻修士課程学位取得プロセス

		③2023年度英文学専攻年間スケジュール
評価の視点4※	履修登録に関するガイダンスやオリエンテーションなど適切な履修指導を実施している（オンラインも含む）。 根拠資料→B4-69 履修登録に関するガイダンスやオリエンテーション実施要項、（オンラインの場合はWeb サイトも可→別紙の備考に URL 記入）	
評価の視点5※	授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス	
★項目(4) 4-4②オンライン教育も含めて、授業外学習に資するフィードバックの方法や、量的・質的に適当な学習課題を提示しているかを確認する方法などについて根拠資料を用いて回答してください。		
<<回答>> オンライン教育の実施はない。研究指導計画（年間スケジュール）を学生に説明し、それに基づく研究指導（フィードバック）を授業中に実施している。また、シラバスに授業外学習として求める時間や予習内容等を記載しており、この妥当性について第三者によるシラバスチェックにて、適切か否かの確認がなされている。	<<根拠資料>> 32-C4-3 : ①英文学専攻修士課程学位取得プロセス ②2023年度英文学専攻年間スケジュール ③2023年度シラバス及びシラバスチェック体制について	
評価の視点6※	研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュールなど）をあらかじめ学生に明示し、それに基づく研究指導を実施している。 根拠資料→B4-73 研究科研究指導計画、基礎要件確認シート 13	
◆学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置について問題点があれば記述してください。		
<<回答>> 特になし		
点検・評価項目(5)	4-5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
評価の視点1※ 【基礎要件●】	成績評価及び単位認定を適切に行うための措置として以下を行っている。 ・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位認定等の適切な認定 ・成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・成績評価及び単位認定に関わる全学的ルールの設定その他全学内部質保証推進組織の関わり 根拠資料→A1-2* 大学院学則、基礎要件確認シート 10,12,13、B4-74 オンライン教育に鑑み成績評価の公正性、公平性を担保するための措置を示す資料	
評価の視点2※ 【基礎要件●】	学位授与を適切に行うための措置として以下を行っている。 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表【修士・博士】 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ・適切な学位授与 ・学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり 根拠資料→A1-2* 大学院学則、A4-36* 学位規則、基礎要件確認シート 10,12,13	
◆成績評価、単位認定及び学位授与について問題点があれば記述してください。		
<<回答>> 特になし		
点検・評価項目(6)	4-6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
評価の視点1 【評価要件○】	学位課程の分野の特性に応じた学修成果を測定するための指標（特に専門的な職業との関連性が強いものにあっては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。）を設定している。 ※成果指標は定量的指標、定性的指標を複数組み合わせ設定することが望ましい。 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果	
評価の視点2 【評価要件○】	学生の学修成果の測定方法を開発している。 <<学修成果の測定方法例>>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学修成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取 <p>根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果</p>
<p>★項目(6) 4-6①全学部・学科、研究科・専攻で共通設定している「DPに示す学習成果（能力や資質）」「学生アンケートや調査」以外で、部局独自として設定している学習成果の測定をするための指標と、その測定方法をすべて記述してください。</p>	
<p>＜回答＞</p> <p>英文学専攻の学習成果の評価指標は、「修士論文やそれにあたるものの成績」である。測定方法としては、すべての修士課程院生が修士論文を提出できたかどうかを基準に測定を行っている。</p>	<p>＜根拠資料＞</p> <p>32-C4-4： 部局ごとの評価指標（2022－2025）</p>
<p>★項目(6) 4-6②学習成果を測定した結果（共通設定と、独自設定含む）について代表的事例を回答してください。また、全ての測定結果を根拠資料として提出してください。</p>	
<p>＜回答＞</p> <p>【共通設定】</p> <p>アンケート結果は、英文学専攻単独ではなく、全学的なものではあるが、学生の満足度が高いことが確認された。</p> <p>【独自設定】</p> <p>2022年度修士論文提出者がいなかったため、測定及び測定結果を活用するまでに至っていない。</p>	<p>＜根拠資料＞</p> <p>32-C4-5：第2回文学研究科 委員会議事録要旨(2022年5月16日開催)</p>
<p>★学習成果の指標と測定方法に関する課題や長所などを記述してください。</p>	
<p>＜回答＞</p> <p>在学中に留学を経験する者もあり、留学経験がもたらす修士論文への影響・精度・評価をもとに今後の修士課程の教育課程の在り方について検証・検討ができることが長所と考える。</p> <p>一方で、留学した場合、オーバーマスターとなる学生がいるため、（本来、2年間の成果物として測定すべきものについて）同一基準・条件での測定についてやや課題があるといえる。</p>	
<p>★学習成果の測定結果の分析方法に関して課題や長所などを記述してください。</p>	
<p>＜回答＞</p> <p>測定結果の分析方法を定めることが課題となっている。</p>	
<p>点検・評価項目(7)</p>	<p>4-7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。</p>
<p>評価の視点1※ 【評価要件○】</p>	<p>適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習成果の測定結果の適切な活用 <p>根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果、B2-51 2023年度点検・評価シート、B2-52 会議録（または準ずるメール記録）：（開催日）2023年度自己点検・評価について</p>
<p>評価の視点2 【評価要件○】</p>	<p>点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取組を行っている。</p>
<p>★項目(7) 4-7①学習成果測定の実績と、実際の測定結果にもとづいた教育改善の取り組み状況を、具体的に回答してください。</p> <p>他大学事例：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文やプレゼンテーションなど成果報告の機会が広がり、その開催方法も交流や競争性を取り入れた場へと展開している。 ・「学生の授業に関する調査」結果に対して、授業担当者はコメントや具体的な改善策を公表している。 ・英語に関する学習成果把握の取り組みとして、全学年対象の英語アチーブメントテストの結果を英語スコア管理システムにより一元的に管理しFD部会でデータの検証を行い英語教育の改善に取り組んでいる。 ・論文中間発表や論文審査基準の結果をもとに、カリキュラムとその内容、授業方法を自己点検し、特に博士論文は、助成制度を設けているため学術的水準の維持、向上に繋げている。 	
<p>＜回答＞</p> <p>測定結果のデータ蓄積がないため、まだ取り組んでいない</p>	<p>＜根拠資料＞</p> <p>32-C4-6：なし</p>
<p>項目(7) 4-7②改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。</p> <p>2019年度以降の取り組みも含めて記述してください。</p>	
<p>＜回答＞</p>	<p>＜根拠資料＞</p>

修了生に対して在籍時の院生生活（教育・研究・学生支援・キャリア支援等）について問うアンケートを実施しており、回答内容より今後の専攻の教育活動の向上に向けて参考になっている。	32-C4-7: 2021年度修了生アンケート報告
--	---------------------------

II 現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項（工夫していること）を、意図した成果（目標）を明確にして記述してください。

※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・ 特色

III 今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。

※注：複数記述可、ただし2023年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題 点・ 課題

IV 【改善計画（事業計画）】

カ テ ゴ リ	計 画 番 号	B票No or開始 年度	改善計画 (アクション プラン)	内容(改善を要すると判断した根 拠)	目標の評価指標	目標値	年度計画
②	1	2022- 4III- 1(4-7)	測定・分析計画 の活用	測定・分析計画を活用し教育改善計 画を実施する。	学生調査と卒業アンケート を組み合わせて目標の達成 度を検証し、教育改善に反 映していく。	A(100%)：実施 B(80%)：計画 C(50%)：検討 D(20%)：測定、分析	2022 末結 果：D 2023：D 2024：C 2025：C 2026：B 2027：B 2028：A
①	2	2023 (2022 ～継 続)	英文学シンポジ ウム(研究発表 会)	大学院生が各自の研究の成果を発表 し、指導教員、学生、学外研究者と の議論を通して更なる研究を目指 す。	修士論文の作成を目指し、 学会形式での発表をしてプ レゼンテーションの仕方を 学ぶ。	A(100%)：実施 B(80%)：周知 C(50%)：計画 D(20%)：検討	2023： ABCD C
①	3	2023 (2022 ～継 続)	英文学専攻特別 講義	外部講師（大学教員、作家、翻訳家 等）を招き大学院生の専攻に沿った 内容の講演会を実施する。	学生が普段触れることので きない外部講師の研究に触 れ、新たな情報を入手して 自己の研究に応用する。	A(100%)：実施 B(80%)：周知 C(50%)：計画 D(20%)：検討	2023： ABCD C
①	4	2023 (2022 ～継 続)	『Paulownia Review』の発行	大学院生の英文による論文集の発 行。なお、本事業は従前より実施し ているものである。	大学院生の日頃の研究成果 の英文による発表。	A(100%)：刊行 B(80%)：編集 C(50%)：原稿のとり まとめ D(20%)：企画	2023： ABCD D

V 【内部質保証委員会による点検・評価】

<p>2022年度<所見></p> <p>卒業生に対して修了アンケートを実施していることや、学修成果を測定するための評価指標の設定がなされたことは一歩前進として評価できる。測定された学修成果の活用指針を定めるなどして、教育課程の一層の改善・向上に繋げられたい。</p> <p>2021年度に学習成果の評価指標を定めており、評価の指標は、学位授与方針（DP）に示した学習成果の積み上げ（能力の積算）、学習成果の測定を目標とした学修行動調査等、修士・博士論文の成績としている。活用としては、カリキュラムの検証、DPに示した学習成果（能力の積算）との検証、学修支援内容の検討としている。これらの測定結果は今後、基準4の点検・評価の際の根拠資料として提出することになる。今後、測定結果を活用した改善・向上への取り組みが望まれる。</p>
--

2023年度<所見>

項目(3)4-3②「当該部局のカリキュラムの編成、授業科目の配置の特性」の回答内容からは、貴専攻の教育内容を読み取ることができなかった。次年度は貴専攻のカリキュラムについて第三者に分かりやすい記述をお願いしたい。

学習成果の測定方法として修士・博士論文等の成績を設定し「提出すること」を評価指標とされているが、2022年度は提出者0という結果になっている。この直接評価については、測定方法と評価指標を追加されることが望ましい。例えば、事業計画のアクションプランの「英文学シンポジウム（研究発表会）」のプレゼン能力なども評価指標にならないだろうか。一方、間接評価のアンケートの満足度は高い評価を得たと検証されているので、今後も貴専攻の取り組みに期待したい。

◆評価の基準について**※学部、研究科等評価基準**

S	大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。
A	大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。
B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

<注>「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

基準4 教育課程・学習成果**【大学基準】**

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

（解説）

大学は、その理念・目的を実現するために、授与する学位ごとに、修得すべき知識、技能、態度など当該学位にふさわしい学習成果を示した学位授与方針を定め、公表しなければならない。また、学位授与方針に基づき、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示した教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。

大学は、学士課程、修士課程、博士課程及び大学院の専門職学位課程のいずれの学位課程にあっても、法令の定めに加え、自ら定める教育課程の編成・実施方針に基づいて授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しなければならない。その際、学術の動向や、グローバル化、情報活用の多様化その他の社会の変化・要請等に留意しつつ、それぞれの学位課程における教育研究上の目的や学習成果の修得のためにふさわしい授業科目を適切に開設する必要がある。また、学問の体系などを考慮するとともに、各授業科目を大学教育の一環として適切に組合せ、順次性に配慮し効果的に編成する必要がある。

大学は、教育課程の編成・実施方針に基づき、授業内外における学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じなければならない。その一環として、適切なシラバスを作成するとともに履修指導を適切に行い、また、授業や研究指導の計画に基づいて教育研究指導を行うほか、授業形態や授業内容、授業方法に工夫を凝らすなど、十分な措置を講ずることが必要である。

大学は、履修単位の認定方法に関して、いずれの学位課程においても、各授業科目の特徴や内容、授業形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿った措置を採ることが必要である。また、教育の質を保証するために、あらかじめ学生に明示した方法及び基準に則った厳格かつ適正な成績評価及び単位認定を経て、適切な責任体制及び手続によって学位授与を行わなければならない。

大学は、学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学習成果を学生が修得したかどうかを把握し、評価することが必要である。そのために、学習成果を様々な観点から把握し評価する方法や指標を開発し、それらを適用する

必要がある。

大学は、教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。その際、把握し、評価した学生の学習成果を適切に活用することが重要である。